

○大本營発表（昭和十八年十二月十一日十一時）

中支那方面帝國陸軍部隊は常德附近の戦斗に於て更に次の戦果を収めたり（十二月四日発表せるものを含まず）

敵に与へたる損害

わが方にて収容せる死体 一一、〇〇六（師長六名を含む）

俘虜 一〇、六六四

飛行機撃墜 二〇機（内不確実一機）

鹵獲品 火砲七七門 銃三、一三七挺

わが方の損害 戦死七一八名

○大本營発表 昭和十八年十二月二十九日十四時

十一月二日より洞庭湖西万地区に作戦中なりし帝國陸軍部隊は

重慶抗戦力の根幹たる第六、第九戦区の敵主力を撃滅すると共

に該方面の要衝常德周辺の諸軍事施設を完全に復滅せり

二作戦部隊は所期の目的を完全に達成し十二月二十五日原態勢に

復帰せり

三 本作戦間の総合戦果次の如し

敵に与へたる損害

我方にて收容せる死体

俘虜

常德附近に於ける飛行機撃墜

主なる鹵獲品

火 砲

重 砲

小 銃

各種弾薬

我方の損害

戦 死

三二、七四七

一四、三三五

六〇機

一五八門

六五七挺

六三五六挺

二三六万発

一六六六名

戦果の概観

(編者註)

今次第十一軍の進攻作戦は地域的には東西約三百軒、南北約百數十軒に及ぶ広大なる戦場に於て敵中を穿貫突破しつつ到る處で舌出殲滅戦を展開し約一ヶ月に亘る連続作戦の後要衝

常德を攻略し、其の間五ヶ軍十三ヶ師を殲滅、三ヶ軍七ヶ師を撃滅したりと報ぜられた。去る五月の江南進撃作戦に於て北部第六戦区を席捲され続いて戦区の牙城常德を中心とする戦区の中樞要域を蹂躪せられたことによりて重慶側が受けた打撃は誠に真刻なものがあつたと思はれるのであるが、今之を既往の主要作戦と対比すると次の様に見られる。

△老大なる敵屍、俘虜

収容敵死体三二七四七に対し俘虜は其の半数の一四三二五に達し其の比率は過去の戦例に比して著しく大である。

過去の戦例		敵屍	俘虜
予南作戦	一一、〇〇〇	六三三	
第一次長沙作戦	五四、〇〇〇	四、三〇〇	
宜昌作戦	一八、〇〇〇	三、五〇〇	
第二次長沙作戦	五七、三〇〇	一、九五九	
浙贛作戦	四一、九六〇	一〇、九九二	

大別山作戰

六、五〇〇

一、五〇〇

江北殲滅作戰

八、〇〇〇

二、〇〇〇

江南進撃作戰

三六、三〇〇

五、九二三

江北殲滅作戰は特異な例として他の殆んどは其の比率が五分の一以下であるが今次作戰に於ては殆んど二分の一に近い。敵の素質及戦意の低下を示す一証左と見られる

二、多敵火砲の鹵獲

山砲、速射砲、迫撃砲等各種火砲一五八門という戦果も是又過去の戦例に多くを見ないところである

過去の戦例

予南作戰

一七門

第一次長沙作戰

七〇

宜昌作戰

四四

第二次長沙作戰

七五

浙贛作戰

一三〇

大別山作戦

六

江北殲滅作戦

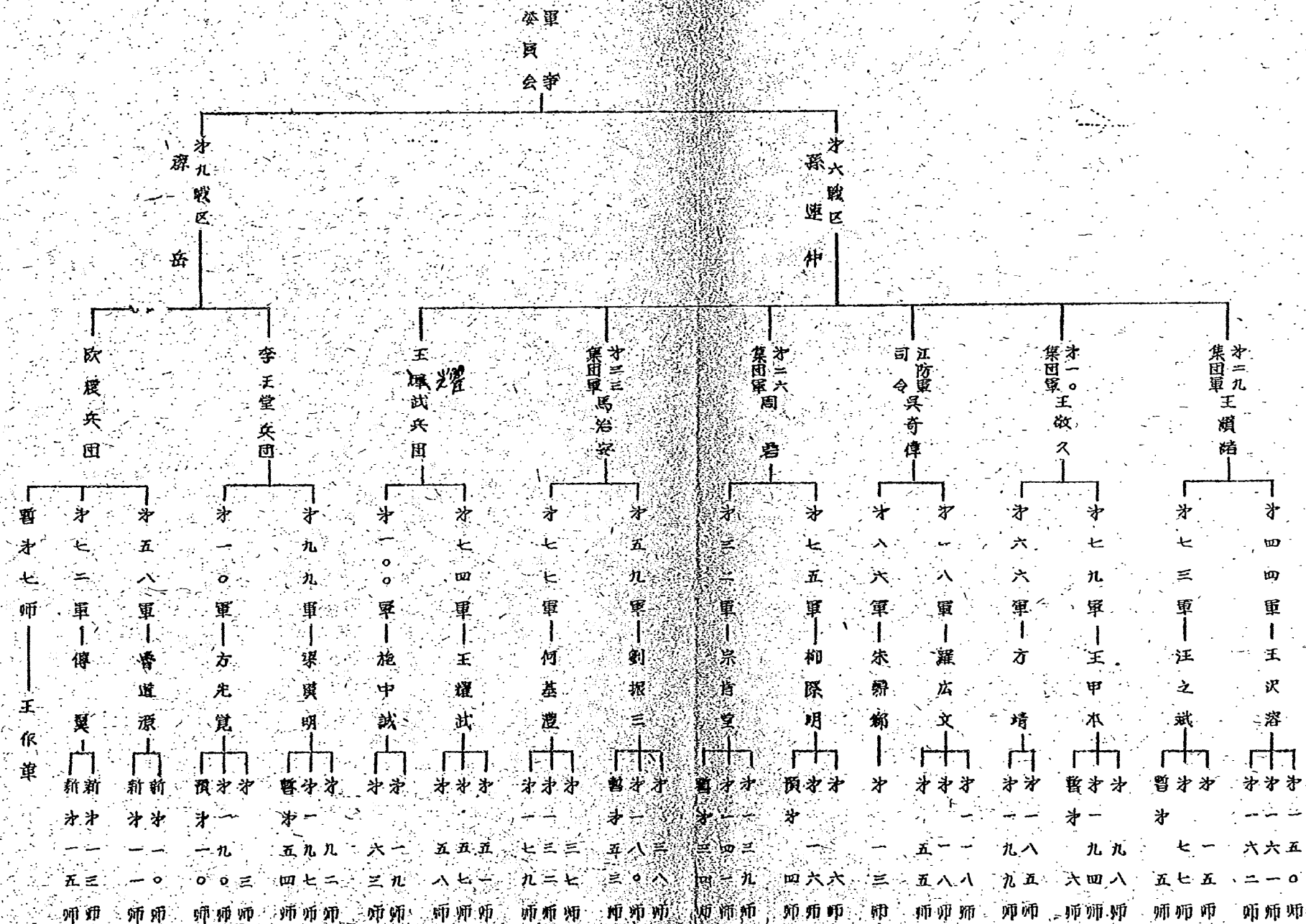
一二四（軽迫撃砲が大部分）

江南進撃作戦

九〇

其の理由は各兵団の穿貫突破と随時随所に展開した包囲撃滅の成果の表はれてあり又第六戦区が重慶防衛の第一線として花形戦区であり其の装備が優秀であつたことなどに因るものと思はれる。

常德会战战斗序列表



（抗戰簡史 附表才四十九より）

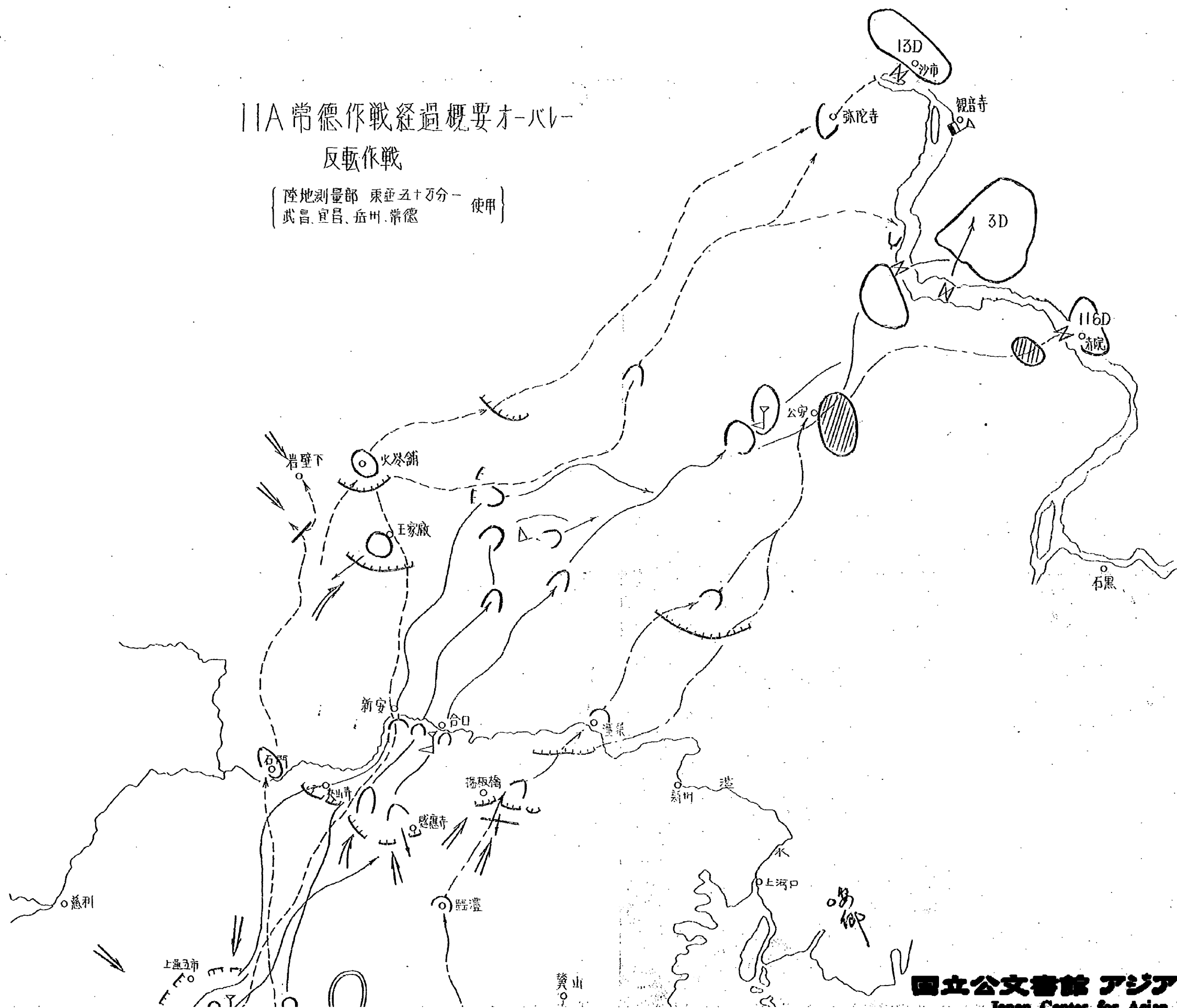
分割撮影ターゲット

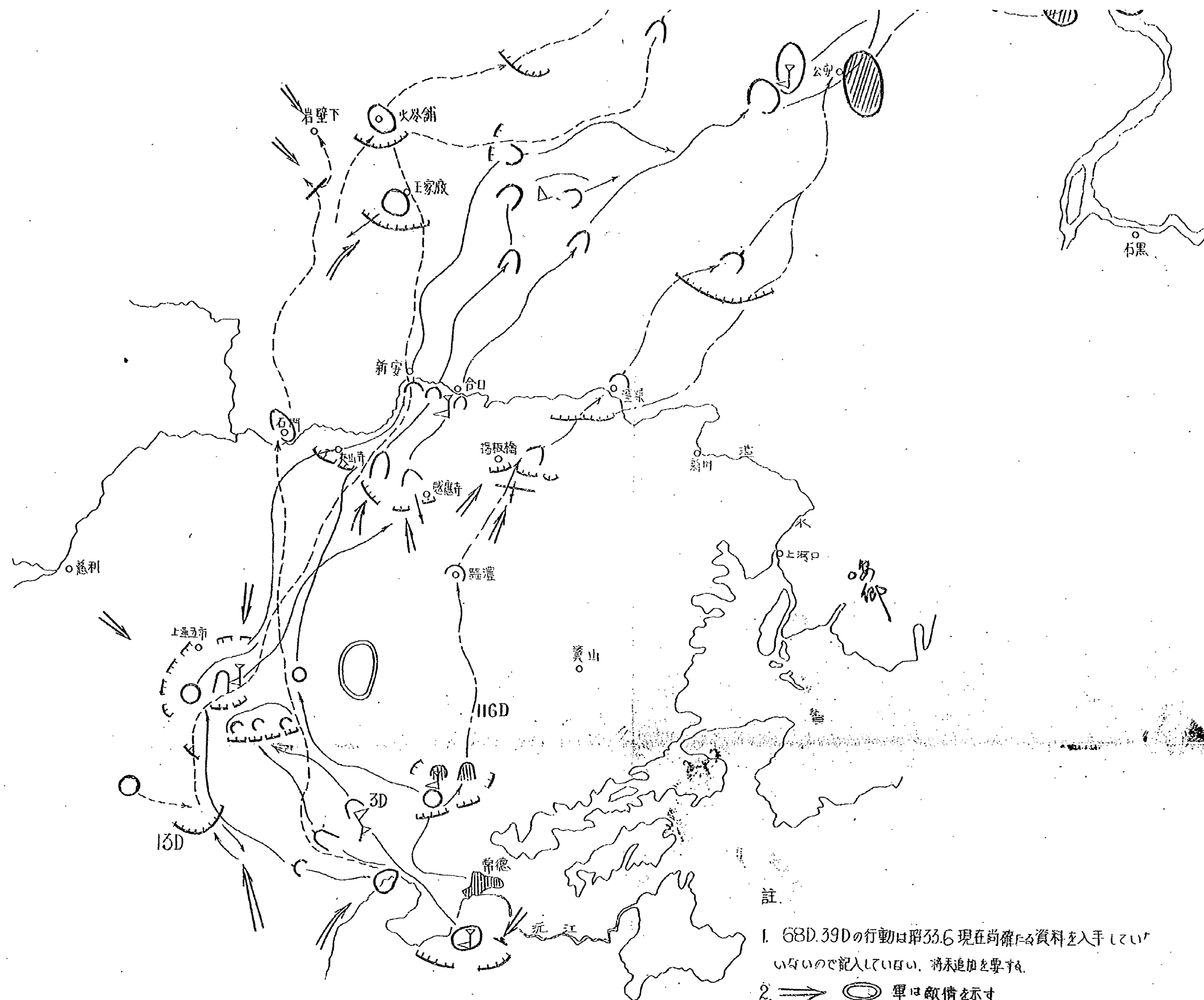
分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文 書 等 名	11A 常徳作戦経過概要オーバー 反転作戦
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1254

11A 常德作戦経過概要オーバー

陸地測量部 東亜五十分一 使用
武昌、宜昌、岳州、常德





分割撮影ターゲット

分割した 部 分 の 撮 影 順 序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文 書 等 名	11A 常德作戦経過概要オーバー
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

11A 常德作戰經過概要才一八一

(自至 11.2 攻勢開始
12.4 常總攻略迄)

